

「久呂保」村名由来考

明治二十二年四月、市町村制施行により、椽久保村、森下村、川額村を合併して「久呂保」という村名が誕生した。その村名由来について、当時の正しい記録が残されていないことは、まことに惜しい。

村誌久呂保では「万葉の古歌からとったという、詩情豊かな村名について、本誌冒頭のしるしとしたい」とあるが、他の由来についても考えてみたい。

昭和五年に発刊された利根郡誌には、久呂保の嶺ろは、黒檜嶽をさして歌われたもので、これにちなみ、久呂保と選んだのであろうと説明している。

しかし、文化九年にこの村に「久呂保山人」と号する俳人がいたことも事実である。鎌沢の澤浦家庭内にある俳人芭蕉翁の句碑の裏面に句と共に名が刻まれている。久呂保山人も万葉の古歌から選んだものであろうか、もう一步憶測を巡らせて、この付近を久呂保の里といった風流名が流れていたのではないかと、とも察せられてならない。

さて字句的に見ると「黒生」が辞書からでてくるが、これは春の野を焼いたあとに出る草々々

ある。開拓で野焼きのあとに発生した「黒生」。こんなところから地名的語源が発生していないだろうか。このほうが「久呂比」より語呂的に近い感じがする。

また、村田春海という国学者の織錦舎筆に『上野国にて「クロフ」という詞あり、樹木の立茂りたる山をいふ。万葉十四にカミツケヌクロホノネロとある。これなるべしといへど、クロホノネロはなお山の名ならむ。第三句を従来字のままにクズハガタとよめり、さて契仲雅談は之を地名とせり、案ずるにも「久葛葉成」とありしを一字一字に書き改むるに当りて「成」を「方」と見誤りて「我多」とは書けるならむ。されば訂して葛葉奈須とすべし。クズハナスは「葛葉の如ク」となりカナシはカナシキを訛れるなり、と解釈の焦点を専ら叙景的に注いでいるが、遠く愛別れている男女の想い遣り詠んだ一種の相聞の歌であることは否めない」とある。「久呂保の嶺ろ」「久呂保山人」「黒生の里」と、廻り廻り考え合せて、久呂保の村名由来は興味詩情を一層強く我々に訴えているであらう。

参考 村誌久呂保
昭和三十二年四月の会

事務局長 島田 民夫



ぬまたとね医療・介護連携相談室のホームページをご活用ください!

ぬまたとね医療・介護連携相談室は、医療と介護の両方を必要とする方が住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせる街づくりのために様々な事業に取り組んでいます。

相談室ホームページの「社会資源MAP」からは、利根沼田圏域内の病院、介護・福祉サービス、避難所

などの情報を検索することができます。「リンク集」からは各種お役立ちサイトに移動することもできます。

『ぬまたとね医療・介護連携相談室』で検索、または下記のQRコードを読み取ってぜひ有効にご活用ください。



ぬまたとね医療・介護連携相談室
<https://numatatone.gunma.med.or.jp/renkei>



医療と介護の協働
切れ目ない提供体制



問合せ 地域包括支援センター ☎ 20-1126

